



男女共同参画 vol.29 ～自分らしく、生き生きと～

みなさんは「**生理の貧困**」という言葉聞いたことはありますか？

「生理の貧困」の問題は、生理用品を購入できないなどの単純な経済的問題に思われてしまいがちですが、令和3年10月に鹿児島県が女性を対象に実施したWEB調査で、「父子家庭のため、親に買ってと言いつらかった。」「初潮と知らなかった。」など、家庭環境や理解不足などの要因もあがっており、女性の健康や尊厳に関わる重要な社会問題として考えていく必要があります。

鹿児島県 WEB アンケートに寄せられた声をいくつかご紹介します。

5人家族中4人が女性で、生理用品代は毎月とてもかかりますが、子どもたちに我慢させたくないで、自分の分を削って変える回数を減らしています。(40代・主婦)

トランスジェンダーの男性や病気等で子宮がない女性が抱える生理の悩みも知ってほしいです。「生理がない女性もいる」「生理は女性だけのものではない」という認識が広まれば、生理に関わる全ての人にとって、居心地のよい社会になると思います。(30代・パート)

学生の頃、親が買ってくれたものが肌に合わず、別のものをお願いすると嫌な顔をされました。(30代・会社員)

生理は自己責任とされ、理解されないまま男性にも女性にも心無い言葉をかけられてきました。生理前から排卵までめると、月の半分は身体の不調がある女性がいることを理解してほしいです。(40代・正社員)

生理は女性が子どもを産むための大切な体のしくみなので、生理用品の節約をしたり、使い回しなどで身体への負担がかからないよう、安心して衛生的に過ごせる社会にしてほしいです。(30代・契約社員)

小中学生にとって生理の貧困はとても深刻です。ポーチをトイレに持っていくだけで生理と冷やかされたりして、交換頻度が減る経験をしました。保健室やトイレでの常備、配布を進めてほしいです。(20代・パート)

生理への理解は、性別や職業に関わらず、相手の立場に立って想像し、思いやれるかどうかだと思います。男女ともに小さい頃から理解を得る機会を提供してほしいです。(30代・正社員)

父子家庭のため父親には話しづらく、収入も少ないため購入を頼みにくいです。無償配布などあれば、とてもありがたいです。(10代・高校生)

「生理の貧困」は以前からあった問題ですが、これまで大きく取り上げられてこなかったのは、アンケートからも読み取れるように、生理をタブー視する社会の風潮や、生理や女性の健康のことを知る機会が少なかったことなどが背景として考えられます。

また、男性中心型の社会には生理などに悩む女性がいることは想定されていないことが多く、それが女性の社会参画を妨げる一因となっています。生理に悩み苦しむ女性が、学習や労働の機会を失うことなく個性と能力を十分に発揮できる社会の実現のために、プライバシーが配慮されつつ、生理をオープンに話し合える環境づくりが必要です。



今回、瀬戸内町では、鹿児島県男女共同参画室より生理用品の無料配布のご支援をいただき、今年度10月末より、各小中学校、公共施設（海の駅・きゅら島交流館・図書館）に配布・設置のご協力をいただいています。役場庁舎内は、町民のみなさまの利用も多い1階女子トイレに設置しています。今回の取組は「生理の貧困」を抱え、生理用品へのアクセスが難しい方々への無料提供の取組です。本当に必要としている方々へ少しでもこの支援が届くよう、町民のみなさまにおかれましても、ぜひご理解・ご協力をお願いします。

「生理の貧困」や女性の健康、生理を取り巻く情報を多くのみなさまに知っていただき、支援の取組が進められることで、様々な困難を抱えながら暮らしている女性をはじめ、すべての女性が安心して健やかに暮らすことができる社会づくりへ向けて取組んで行きましょう。